

死刑執行に抗議する会長声明

1 2019年12月26日、福岡拘置所において1名の死刑が執行された。同年10月の就任以降、森まさこ法務大臣による初めての執行であり、第2次安倍内閣以降では17回目、執行人数は合わせて39名となった。

当会は、繰り返し死刑執行がなされたことに対し、強く抗議する。

2 日本弁護士連合会は、2016年10月7日、第59回人権擁護大会において、「日本において国連犯罪防止刑事司法会議が開催される2020年までに死刑制度の廃止を目指すべきであること。」等を内容とする宣言を採択し、政府に対し、死刑廃止を目指すことを求めるとともに、日本弁護士連合会としても、死刑廃止に向けた取り組みをすすめる旨表明している。

3 また、国際的にみても死刑廃止はその趨勢であり、2018年12月現在、法律上及び事実上の死刑廃止国は142か国であり、世界の中で3分の2以上を占めている。このように、すでに、全世界の多くの国において死刑の執行はなされていない。

そして、死刑の執行を繰り返している日本に対し、国連の自由権規約委員会、拷問禁止委員会及び人権理事会は、死刑執行を停止し、死刑廃止を前向きに検討するべきであるとの勧告を出し続けており、今回の死刑執行に対しても、諸外国から批判や懸念が示されているところである。

4 当会は、死刑執行に対し、強く抗議するとともに、直ちに死刑執行を停止し、死刑廃止に向けての全社会的議論を開始することを求める。

2020年（令和2年）2月3日

青森県弁護士会

会長 山内 賢二